

博士論文（要約）

論文題名 近世日本の「礼楽」と「修辞」
—荻生徂徠以後の「接人」の制度構想—

氏 名 高山 大毅

近世日本の「礼楽」と「修辞」——荻生徂徠以後の「接人」の制度構想——目次

序章

- 一 率直と婉曲 1
- （一）仁齋の率直 2
- （二）徂徠の婉曲 8
- （三）「接人」の制度構想 10
- 二 「東アジア儒学史」との関係 13

第一部「礼楽」

第一章 聖人の「大道術」——荻生徂徠の「礼楽制度」論——

- 一 はじめに 18
- 二 「礼」の学習 19
 - （一）習熟と「格物」 19
 - （二）「礼」の「義」 21
 - （三）「仁」の忘却 25
- 三 「礼楽」論の資源 26
 - （一）「職分」論 26
 - （二）「風俗」論 28
 - （三）兵学 30
- 四 「接人」の領域と「礼楽制度」 32
 - （一）「土着」と「養老礼」 33
 - （二）「譜代者」 35
 - （三）君臣間の「礼楽」 38
- 五 小括 39

第二章 「器」の支配——水足博泉の「太平」構想——

- 一 はじめに 41
- 二 徂徠学派と博泉 41
- 三 「器」 46
 - （一）「五倫」と「器」 47
 - （二）「詩書礼楽」と「器」 49
- 四 「古学校」 52
- 五 小括 59

第三章 「礼」の遊芸化——田中江南の投壺復興——

- 一 はじめに 61
- 二 「投壺先生」田中江南 61
- 三 投壺復興 64

(一) 投壺礼の「損益」	65
(二) 投壺と遊興	69
四 「神道」と「学校」	72
(一) 「神道」	72
(二) 「学校」	76
五 小括	78

第四章 遅れてきた「古学」者——會澤正志齋の国制論——

一 はじめに	79
二 正志齋と宋学	80
三 正志齋と仁齋学	82
(一) 「拡充」	82
(二) 「異端」	84
四 正志齋と徂徠学	86
(一) 「天」	86
(二) 「国体」	91
五 「封建」の制	96
(一) もう一つの「土着」論	96
(二) 「礼楽制度」の有無	101
六 小括	106

第二部「修辭」

第五章 「人情」理解と「断章取義」——荻生徂徠の文学論——

一 はじめに	108
(一) 「雅俗」	109
(二) 「人情」	110
二 「人情」理解	112
(一) 朱子学の「勸善懲惡」説	112
(二) 「興起」作用と「人情」理解	115
三 「断章取義」	119
(一) 「詩」の「断章取義」	119
(二) 徂徠学派の文芸の「断章取義」的性格	124
四 小括	126

第六章 古文辞派の詩情——田中江南『唐後詩絶句解国字解』——

一 はじめに	129
二 『絶句解』	129
(一) 『絶句解』の成立経緯	129
(二) 注釈法	133

三	『唐後詩絶句解国字解』	134
(一)	「趣向」	134
(二)	「反ニカヘス」	138
四	注釈の実例	139
(一)	「比興」の解説	139
(二)	和歌表現との類似の指摘	142
五	小括	144

第七章 『滄溟先生尺牘』の時代―古文辞派と漢文書簡

一	はじめに	147
二	流行の要因	148
(一)	作文の捷徑	148
(二)	出版機構	149
(三)	南郭の序文	151
三	注釈書	156
四	尺牘の制作	158
(一)	指南書	158
(二)	尺牘集	163
五	小括	165

第八章 説得は有効か―「直言」批判と文彩―

一	はじめに	167
二	「君子」の討議―荻生徂徠	167
(一)	「信」・「習」	167
(二)	「書」・「詩」	170
三	「歌」の優位―賀茂真淵・本居宣長	174
(一)	賀茂真淵	174
(二)	本居宣長	176
四	説得批判の極北―富士谷御杖	179
(一)	「倒語」	179
(二)	「渾発」	182
(三)	「治国平天下」の「密策」	182
五	小括	186

終章

二〇一六年二月に東京大学出版会より、高山大毅『近世日本の「礼楽」と「修辞」——荻生徂徠以後の「接人」の制度構想』として加筆修正の上、刊行された。

文献表

【一次資料】*所蔵を明記していないものは架蔵本を用いた。

1. 大江匡衡『江吏部集』、寛弘年間成立（塙保己一〔編〕『群書類従』第九輯〔訂正第三版〕、続群書類従完成会、一九六〇年）
2. 藤原道憲『本朝世紀』、久安六年（平治元年）（一一五〇）～一一五九年）成立（黒板勝美〔編〕『新訂増補国史大系』第九卷、吉川弘文館、一九三三年）
3. 王宇（撰）・陳瑞錫（注）『翰墨全書』、寛永二十年（一六四三年）刊、国文学研究資料館蔵
4. 熊寅幾（編）『尺牘双魚』、承応三年（一六五四年）刊
5. 加藤磐齋『新古今増抄』、寛文二年（一六六二年）刊（新古今集古注集成の会〔編〕『新古今集古注集成』近世旧注編二、笠間書院、一九九九年）
6. 胡広（等撰）・鶴飼石齋（付訓）『論語大全』、刊年不明、東京大学総合図書館蔵
7. 山鹿素行『山鹿語類』、寛文六年（一六六六年）序（田原嗣郎・守本順一郎〔校注〕『山鹿素行』日本思想大系第三十二卷、岩波書店、一九七〇年）
8. 熊澤蕃山『集義和書』、初版本寛文十二年（一六七二年）刊（後藤陽一・友枝龍太郎〔校注〕『熊澤蕃山』日本思想大系第三十卷、岩波書店、一九七一年）
9. 寒河正親『子孫鑑』、寛文十三年（一六七三年）刊（中村幸彦〔校注〕『近世町人思想』日本思想大系第五十九卷、岩波書店、一九七五年）
10. 著者不明『尺牘診解』、延宝八年（一六八〇年）刊、早稲田大学附属図書館蔵
11. 著者不明『名公翰墨便蒙書』、延宝九年（一六八一年）刊、金沢市立図書館蔵
12. 孤松子（撰）『京羽二重』、貞享二年（一六八五年）刊（井出時秀〔編〕『増補 京都叢書』第六卷、増補京都叢書刊行会、一九三四年）
13. 著者不明『翰墨蒙訓』、貞享五年（一六八八年）刊、弘前市立弘前図書館蔵
14. 伊藤仁齋『語孟字義』（仁齋生前最終稿本）、元禄十二年（一六九九年）（一六九九年）成立、天理大学附属天理図書館蔵
15. 三木之幹・宮田清貞・牧野和高『桃源遺事』、元禄十四年（一七〇一年）頃成立（国書刊行会〔編〕『続々群書類従』第三卷、国書刊行会、一九〇七年）
16. 伊藤仁齋『論語古義』（仁齋生前最終稿本）、元禄十六年（一七〇三年）（一七〇五年）成立、天理大学附属天理図書館蔵
17. 伊藤仁齋『仁齋先生文集』、仁齋生前（一七〇五年まで）に成立、天理大学附属天理図書館蔵
18. 伊藤仁齋『童子問』、宝永四年（一七〇七年）刊（家永三郎・清水茂等〔校注〕『近世思想家文集』日本古典文学大系第九十七卷、岩波書店、一九六六年）
19. 浅見綱齋『論語師説』、成立年不明（木南卓一『論語集註私新抄』、明德出版、二〇〇一年）
20. 貝原益軒『大疑録（初稿）』、正徳四年（一七一四年）成立（井上忠〔編〕『貝原益軒資料集』下、近世儒家資料集成第六卷、ぺりかん社、一九八九年）
21. 荻生徂徠『護園隨筆』、正徳四年（一七一四年）刊（西田太一郎〔編〕『荻生徂徠全集』第十七卷、みすず書房、一九七六年）
22. 荻生徂徠『護園十筆』、享保元年（一七一六年）頃成立、早稲田大学所蔵本

23. 荻生徂徠『護園十筆』、享保元年（一七一六年）頃成立（西田太一郎〔編〕『荻生徂徠全集』第十七卷、みすず書房、一九七六年）
24. 荻生徂徠『辨道』、享保二年（一七二七年）頃成立（吉川幸次郎・丸山眞男・西田太一郎・辻達也〔校注〕『荻生徂徠』、日本思想大系第三十六卷、岩波書店、一九七三年）
25. 荻生徂徠『辨名』、享保二年（一七二七年）頃成立（吉川幸次郎・丸山眞男・西田太一郎・辻達也〔校注〕『荻生徂徠』、日本思想大系第三十六卷、岩波書店、一九七三年）
26. 伊藤仁齋『孟子古義』、享保五年（一七二〇年）刊（関儀一郎〔編〕『日本名家四書註釈全書』、東洋図書刊行会、一九二四年）
27. 荻生徂徠『孟子識』、享保五年（一七二〇年）頃成立（今中寛司・奈良本辰也〔編〕『荻生徂徠全集』第二卷、河出書房新社、一九七八年）
28. 荻生徂徠『大平策』、享保六年（一七二二年）頃成立（吉川幸次郎・丸山眞男・西田太一郎・辻達也〔校注〕『荻生徂徠』、日本思想大系第三十六卷、岩波書店、一九七三年）
29. 荻生徂徠『明律国字解』、享保七年（一七二二年）頃成立（内田智雄・日原利國校訂、創文社、一九六六年）
30. 鷹見鳩爽『詩筌』、享保七年（一七二二年）刊
31. 荻生徂徠『政談』、享保十一年（一七二六年）頃成立（平石直昭〔校注〕『政談―服部本』、平凡社、二〇一一年）
32. 荻生徂徠『徂來先生答問書』、享保十二年（一七二七年）刊（島田虔次〔編〕『荻生徂徠全集』第一卷、みすず書房、一九七三年）
33. 荻生徂徠『鈴録』、享保十二年（一七二七年）頃成立／安政二年（一八五五年）刊（今中寛司・奈良本辰也〔編〕『荻生徂徠全集』第六卷、河出書房新社、一九七三年）
34. 荻生徂徠『鈴録外書』、享保十二年（一七二七年）頃成立（今中寛司・奈良本辰也〔編〕『荻生徂徠全集』第六卷、河出書房新社、一九七三年）
35. 荻生徂徠『徂徠漫筆』、成立年不明、茨城県立歴史館蔵
36. 荻生徂徠『忍尊帖』、成立年不明、甘雨亭叢書、早稲田大学図書館蔵
37. 荻生徂徠『忍尊帖』、成立年不明（日野龍夫〔編〕『荻生徂徠全集』第十八卷、みすず書房、一九八三年）
38. 荻生徂徠『徂徠集拾遺』、成立年不明、（平石直昭〔編集・解説〕『徂徠集 徂徠集拾遺』、近世儒家文集集成第三卷、ぺりかん社、一九八五年）
39. 太宰春臺『經濟録』、享保十四年（一七二九年）成立（滝本誠一〔編〕『日本經濟叢書』第六卷、一九一四年）
40. 湯淺常山『文会雜記』、寛延二年（一七五九年）成立（日本隨筆大成編輯部編『日本隨筆大成（第一期）』第十四卷、吉川弘文館、一九七五年）
41. 李攀龍（著）・陳敬所（編）・田中蘭陵（考訂）『滄溟先生尺牘』卷上、享保十五年（一七三〇年）
42. 水足博泉『太平策』、享保十五年（一七三〇年）成立、永青文庫蔵
43. 水足博泉『太平策』、享保十五年（一七三〇年）成立（武藤巖男・宇野東風・古城貞

- 吉〔編〕『肥後文献叢書』第二卷、隆文館、一九〇九年)
44. 水足博泉『南留別志』、享保十六年(一七三一年)頃成立(西田耕三「水足博泉著『南留別志』(翻刻と解題)」、『熊本大学教養学部紀要 人文・社会科学』第二十八号、熊本大学教養部、一九九三年一月)
45. 水足博泉『博泉文集』、成立年不明、熊本県立図書館蔵
46. 大枝流芳『香道秋の光』、享保十八年(一七三三年)刊、東京大学総合図書館蔵
47. 荻生徂徠『絶句解拾遺』、享保十八年(一七三三年)刊、茨城県立歴史館蔵
48. 高棟(編)・服部南郭(考訂)『唐詩品彙』、享保十八年(一七三三年)刊
49. 服部南郭『南郭先生灯下書』、享保十九年(一七三四年)刊、国文学研究資料館蔵
50. 王穉登(撰)・田中蘭陵(刪定)『謀野集刪』、享保二十年(一七三五年)刊、(長澤規矩也〔編〕『和刻本漢籍文集』第十四輯、汲古書院、一九七八年)
51. 伊藤東涯『読詩要領』、成立年不明(清水茂・揖斐高・大谷雅夫校注『日本詩史 五山堂詩話』、新日本古典文学大系第六十五卷、岩波書店、一九九一年)
52. 成島錦江『題苑序』、元文元年(一七三六年)、早稲田大学図書館蔵
53. 伊藤東涯『学問關鍵』、元文二年(一七三七年)刊(井上哲次郎・蟹江義丸〔編〕『日本倫理彙編』卷五、復刻版、臨川書店、一九七〇年)
54. 伊藤東涯『經史博論』、元文二年(一七三七年)刊(関儀一郎編『続日本儒林叢書』第二冊、東洋図書刊行会、一九三一年)
55. 服部南郭『南郭先生文集』二編、元文二年(一七三七年)刊(日野龍夫〔編集・解説〕『南郭先生文集』、近世儒家文集集成第七卷、一九八五年)
56. 大潮元皓(編)『四大家文抄』、元文三年(一七三八)刊
57. 荻生徂徠『学則』(『徂徠集』卷十七所收、元文五年(一七四〇年)刊、吉川幸次郎・丸山眞男・西田太一郎・辻達也〔校注〕『荻生徂徠』、日本思想大系第三十六卷、岩波書店、一九七三年)
58. 荻生徂徠『徂徠集』、元文五年(一七四〇年)刊(平石直昭〔編集・解説〕『徂徠集 徂徠集拾遺』、近世儒家文集集成第三卷、ぺりかん社、一九八五年)
59. 荻生徂徠『論語微』、元文五年(一七四〇年)刊(小川環樹〔編〕『荻生徂徠全集』第三卷、みすず書房、一九七七年、小川環樹〔編〕『荻生徂徠全集』第四卷、みすず書房、一九七八年)
60. 河田正矩『家業道德論』、元文五年(一七四〇年)刊(日本経済叢書刊行会〔編〕『通俗経済文庫』卷九、日本経済叢書刊行会、一九一七年)
61. 焦竑(編)・大内熊耳(点)『四先生文範』、寛保元年(一七四一年)刊(長澤規矩也〔編〕『和刻本漢籍文集』第十五輯、汲古書院、一九七八年)
62. 王世貞『弇州先生尺牘選』、寛保二年(一七四二年)刊、(長澤規矩也〔編〕『漢籍文集』第十四輯、汲古書院、一九七八年)
63. 王世貞(著)・玉宣(選定)『弇州摘芳』、寛保二年(一七四二年)刊
64. 王世貞(著)『王元美尺牘』、寛保二年(一七四二年)刊
65. 堀景山『不尽言』、寛保二年(一七四二年)頃成立(植谷元・水田紀久・日野龍夫校注『仁齋日札 たはれ草 不尽言 無可有郷』、新日本古典文学大系第九十九卷、岩波書店、二〇〇〇年)

66. 賀茂真淵『国歌論臆説』、延享元年（一七四四年）成立（佐佐木信綱『日本歌学大系』第七卷、風間書房、一九五七年）
67. 賀茂真淵「再奉答金吾君書」、延享元年（一七四四年）成立（佐佐木信綱『日本歌学大系』第七卷、風間書房、一九五七年）
68. 宋光廷（校閲）・宋祖駿・宋祖驊（補注）・山田蘿谷（点）『補注李滄溟先生文選』、延享元年（一七四四年）刊、東京大学東洋文化研究所蔵
69. 太宰春臺『六経略説』、延享二年（一七四五年）序（井上哲次郎・蟹江義丸〔編〕『日本倫理彙編』第六卷、育成会、一九〇八年）
70. 服部南郭『南郭先生文集』三編延享二年（一七四五年）刊（日野龍夫〔編集・解説〕『南郭先生文集』、近世儒家文集集成第七卷、一九八五年）
71. 荻生徂徠『絶句解』、延享三年（一七四六年）刊
72. 顧起元（彙選）・李之藻（校釈）・三浦瓶山（考訂）『盛明七子尺牘註解』、延享四年（一七四七年）刊（長澤規矩也〔編〕『和刻本漢籍文集』第二十輯、汲古書院、一九八四年）
73. 沈一貫（編）・芥川丹丘（校）『弇州山人四部稿選』、延享五年（一七四八年）刊（長澤規矩也〔編〕『和刻本漢籍文集』第十九輯、汲古書院、一九七九年）
74. 李攀龍（著）・関南瀕（校訂）『滄溟先生集』、延享五年（一七四八年）刊、一橋大学附属図書館
75. 李夢陽『李空同尺牘』、延享五年（一七四八年）（長澤規矩也〔編〕『和刻本漢籍文集』第十四輯、汲古書院、一九七八年）
76. 成島錦江（述授）「処世訓示蒙」、寛延元年（一七四八年）成立（同『芙蓉楼玉屑』（宝暦六年序）所収、久保田啓一「川越市立図書館蔵『芙蓉玉屑』（上）——翻刻と解題」（『日本文学研究』第二十六号、梅光学院大学、一九九〇年）
77. 安藤東野『東野遺稿』卷上、寛延二年（一七四九年）刊、東京大学総合図書館蔵
78. 上柳四明『尺牘活套』、寛延二年（一七四九年）刊
79. 湯浅常山『文会雜記』、寛延二年〜宝暦三年（一七四九年〜一七五三年）成立（日本随筆大成編輯部〔編〕『日本随筆大成（第一期）』第十四卷、吉川弘文館、一九七五年）
80. 荻生徂徠『孫子国字解』、寛延三年（一七五〇年）序
81. 室鳩巢『駿台雜話』、寛延三年（一七五〇年）刊（森銑三〔校注〕岩波文庫、岩波書店、一九九六年）
82. 良野華陰『過雁裁』、寛保三年（一七五〇年）刊、国文学研究資料館蔵
83. 王世貞（編）・王世懋（校）・林東溟（校訂）『尺牘清裁』、寛延四年（一七五一年）刊、東京大学総合図書館蔵
84. 三浦瓶山『瓶山先生原学篇』、寛延四年（一七五一年）刊（関儀一郎〔編〕『儒林雜纂』、東洋図書刊行会、一九三八年）
85. 無隠道費『心学典論』、寛延四年（一七五一年）刊、東京大学史料編纂所蔵
86. 武田梅龍『李滄溟尺牘便覧』、宝暦二年（一七五二年）刊、早稲田大学図書館蔵
87. 太宰春臺『春臺先生紫芝園稿』、宝暦二年（一七五二年）刊（小島康敬〔編集・解説〕

- 『春臺先生紫芝園稿』近世儒家文集集成第六卷、ぺりかん社、一九八六年）
 88. 無相文雄『三音正譌』、宝暦二年（一七五二年）刊、東京大学総合図書館蔵
 89. 本居宣長『本居宣長随筆』第二卷、宝暦二年（一七五二）宝暦七年（一七五七）（大久保正編『本居宣長全集』第十三卷、筑摩書房、一九六八年）
 90. 浅見綱齋（講）『筍録』、宝暦三年（一七五三年）序（西順蔵・阿部隆一・丸山眞男〔校注〕『山崎闇齋学派』、日本思想大系第三十一卷、岩波書店、一九八〇年）
 91. 宇佐美瀧水『絶句解考証』、宝暦三年（一七五三年）序、東京大学総合図書館蔵
 92. 荻生徂徠『大学解』、宝暦三年（一七五三年）刊（今中寛司・奈良本辰也〔編〕『荻生徂徠全集』第二卷、河出書房新社、一九七八年）
 93. 荻生徂徠『中庸解』、宝暦三年（一七五三年）刊（今中寛司・奈良本辰也〔編〕『荻生徂徠全集』第二卷、河出書房新社、一九七八年）
 94. 汪道昆（著）・皆川淇園（輯注）『汪南溟尺牘』、宝暦四年（一七五四年）、早稲田大学図書館蔵
 95. 無隠道費『金龍尺牘』、宝暦四年（一七五四年）刊、国立国会図書館蔵
 96. 小宮山昌世『発蒙書束式』、宝暦五年（一七五五年）刊
 97. 田中道齋『尺牘称谓辨』、宝暦五年（一七五五年）刊、都立中央図書館蔵
 98. 田中道齋『道齋先生尺牘』、宝暦六年（一七五六年）刊、龍谷大学図書館蔵
 99. 田中道齋『道齋先生承諭篇』、宝暦七年（一七五七年）刊、龍谷大学図書館蔵
 100. 梁田蛻巖『答問書』、成立年不明（浜田四郎次郎・浜野知三郎・三村清三郎〔編〕『日本芸林叢書』第二卷、鳳出版、一九八二年復刊）
 101. 石島筑波『菱荷園文集』初稿補遺（自筆本）、成立年不明、早稲田大学図書館蔵
 102. 服部南郭『南郭先生文集』四編、宝暦八年（一七五八年）刊（日野龍夫〔編集・解説〕『南郭先生文集』、近世儒家文集集成第七卷、一九八五年）
 103. 伊藤東涯『訓幼字義』、宝暦九年（一七五九年）刊（井上哲次郎・蟹江義人〔編〕『日本倫理彙編』卷五、復刻版、臨川書店、一九七〇年）
 104. 玩世教主（井上蘭臺）『唐詩笑』、宝暦九年（一七五九年）刊（浜田啓介・中野三敏〔校注〕『異素六帖 古今俄選 粹字瑠璃 田舎芝居』、新日本古典文学大系第八十二卷、岩波書店、一九九八年）
 105. 宇佐美瀧水『輔儲笥記』、宝暦十年（一七六〇年）成立（澤井啓一〔編集・解説〕『瀧水叢書』近世儒家文集集成第十四卷、ぺりかん社、一九九五年）
 106. 戴慎庵『慎庵遺稿』、宝暦十年（一七六〇年）刊、熊本大学附属図書館蔵
 107. 山縣周南『周南先生為学初問』、宝暦十年（一七六〇年）刊（井上哲次郎・蟹江義丸〔編〕『日本倫理彙編』第六卷、育成会、一九〇八年）
 108. 成島錦江（述授）『道解』、成立年不明（同『芙蓉楼玉屑』〔宝暦六年序〕所収、久保田啓一『川越市立図書館蔵『芙蓉玉屑』（下）——翻刻と解題』『日本文学研究』第二十八号、梅光学院大学、一九九一年）
 109. 大潮元皓『西溟大潮禅師魯寮尺牘』、宝暦十一年（一七六一年）刊、国立国会図書館蔵
 110. 室鳩巢『鳩巢先生文集』前篇、宝暦十一年（一七六一年）刊、東京大学総合図書館蔵
 111. 大枝流芳『雅遊漫録』、宝暦十三年（一七六三年）刊（日本随筆大成編輯部『日本随

- 筆大成』第二期二三、吉川弘文館、一九七四年）
 112. 荻生徂徠『絶句解』、宝曆十三（一七六三年）刊
 113. 本居宣長『石上私淑言』、宝曆十三年（一七六三年）成立（大久保正〔編〕『本居宣
 長全集』第二卷、筑摩書房、一九六八年）
 114. 本居宣長『紫文要領』、宝曆十三年（一七六三年）成立（大野晋〔編〕『本居宣長全
 集』第四卷、筑摩書房、一九六八年）
 115. 祇園南海『詩学逢言』、宝曆十三年（一七六三年）刊（中村幸彦〔校注〕『近世文芸
 論集』、日本古典文学大系九四、岩波書店、一九六六年）
 116. 井上金峨『経義折衷』、宝曆十四年（一七六四年）自序（井上哲次郎・蟹江義丸〔編〕
 『日本倫理彙編』第九卷、金尾文淵堂、一九一三年）
 117. 村井中漸（閱）・有馬玄藏（著）『李滄溟尺牘国字解』、明和二年（一七六五年）刊
 118. 大江玄圃『問合早学問』、明和三年（一七六六年）刊、早稲田大学附属図書館蔵
 119. 大田南畝『寝惚先生文集』、明和四年（一七六七年）刊（中野三敏・日野龍夫・揖斐
 高〔編〕『寝惚先生文集 狂歌才蔵集 四方あか』、新日本古典文学大系第八十四卷、
 岩波書店、一九九三年）
 120. 北越山人著『滄溟尺牘諺解』、明和四年（一七六七年）刊（波多野太郎〔編〕『中国
 語学資料叢刊』尺牘篇第一卷、不二出版、一九八六年）
 121. 清田儋叟『藝苑談』、明和五年（一七六八年）刊（池田四郎次郎〔編〕『日本詩話叢
 書』卷九、文会堂書房、一九二二年）
 122. 塚田旭嶺『桜邑間語』、成立年不明（長澤規矩也〔編〕『影印日本隨筆集成』第四輯、
 一九七八年）
 123. 高橋道齋『滄溟先生尺牘考』、明和五年（一七六八年）刊、東北大学狩野文庫蔵
 124. 福奚處（望駒山人）『絶句解評釈』、明和五年（一七六八年）刊、東洋大学附属図書
 館蔵
 125. 新井白蛾『滄溟尺牘児訓』、明和六年（一七六九年）刊、東京大学総合図書館蔵
 126. 荻生徂徠『素書国字解』、明和六年（一七六九年）刊
 127. 大典頭常『尺牘式』、明和六年（一七六九年）刊
 128. 司馬光（更定）・田中江南（補正）『投壺新格』跋、明和六年（一七六九年）刊
 129. 都賀大陸『投壺今格』、明和六年（一七六九年）刊、園部町教育委員会（小出文庫）
 蔵
 130. 中川南峰『絶句解辨書』、明和三年（一七六九年）刊、臼井市立臼井図書館蔵
 131. 穂積以貫『滄溟尺牘国字解』、成立年不明、無窮会図書館蔵
 132. 望月三英『鹿門隨筆』、成立年不明、国立国会図書館蔵
 133. 宇佐美瀧水『絶句解拾遺考証』、明和七年（一七七〇年）刊、臼井市立臼井図書館蔵
 134. 高葛陂『弇州尺牘国字解』、明和七年（一七七〇年）刊、京都大学図書館蔵
 135. 田中菊輔『投壺指南』、明和七年（一七七〇年）刊、国立国会図書館蔵
 136. 田中江南『江南陳言』、明和七〇八年（一七七〇～一七七一）成立、神宮文庫蔵
 137. 田中江南『御文庫興隆愚案』、明和七年〇八年（一七七〇～一七七一）成立（掛本
 勲夫「田中江南の林崎文庫改革意見書・『御文庫興隆愚案』」、「皇學館論叢」第二十

- 六卷第一号、皇學館大学人文学会、一九九三年）
 南川金谿『閑散餘録』、明和七年（一七七〇年）頃成立
 江村北海『日本詩史』、明和八年（一七七一年）刊（清水茂・揖斐高・大谷雅夫〔校注〕『日本詩史 五山堂詩話』新日本古典文学大系第六十五卷、岩波書店、一九九一年）
 京都書林三組行司の『禁書目録』、明和八年（一七七一年）刊（長澤規矩也・阿部隆一〔編〕『日本書目集成』第四卷、汲古書院、一九七九年）
 鈴木澶洲『撈海一得』、明和八年（一七七一年）刊（長澤規矩也〔編〕『影印日本隨筆集成』第四輯）
 松崎觀海『觀海集』、明和九年（一七七二年）序、天理大学附属天理図書館蔵
 著者不明『江戸儒医評林』、明和九年（一七七二年）刊（中野三敏『江戸名物評判記』、岩波書店、一九八七年）
 著者不明『大通伝』、安永年間刊（江戸吉原叢刊刊行会〔編〕『江戸吉原叢刊』第六卷、八木書店、二〇一二年）
 宇野明霞（纂）『唐詩集註』、安永三年（一七七四年）刊
 田中江南『六朝詩選俗訓』、安永三年（一七七四年）刊（都留春雄・釜谷武志〔校注〕、東洋文庫六六六、平凡社、二〇〇〇年）
 三浦瓶山『閑窓自適』、安永五年（一七七六年）刊（関義一郎〔編〕『続日本儒林叢書』第一冊、東洋図書館刊行会、一九二七年）
 三浦瓶山『閑窓自適』、安永五年（一七七六年）刊（長澤規矩也〔編〕『影印日本隨筆集成』第五輯）
 陸九如（纂輯）・田中江南（訳）『新刻簡要達衷時俗通用書柬』、安永五年（一七七六年）刊、（波多野太郎〔編〕『中国語学資料叢刊』尺牘篇第一卷）
 获生徂徠（編）『四家雋』、安永六年（一七七七年）刊、東京大学総合図書館蔵
 大典頭常『小雲棲手簡』初編、安永六年（一七七七年）、国立国会図書館蔵
 田中江南『唐後詩絶句解国字解』、安永六年（一七七七年）刊
 千葉芸閣『芸閣先生文集』、安永六年（一七七七年）刊（富士川英郎〔編〕『詩集日本漢詩』第十五卷、汲古書院、一九八九年）
 蟹養齋『辨復古』、安永七年（一七七八年）刊（関義一郎〔編〕『続日本儒林叢書』第一冊、東洋図書館刊行会、一九二七年）
 瀧鶴臺『鶴臺遺稿』、安永七年（一七七八年）刊、東京大学総合図書館蔵
 平賀中南『日新堂学範』、安永八年（一七七九年）刊（長澤規矩也〔編〕『江戸時代支那学入門書解題集成』第三集、汲古書院、一九七〇年）
 岡崎盧門『尺牘道標』、安永九年（一七八〇年）刊、東北大学附属図書館蔵
 田中江南『書簡啓発』、安永九年（一七八〇年）刊
 宮川崑山・鳥居九江（編）・山本北阜（校）『袁中郎先生尺牘』、安永十年（一七八一年）刊（長澤規矩也〔編〕『和刻本漢籍文集』第十五輯）
 井上金峨『金峨山人考槃堂漫録』、天明二年（一七八二年）序（長澤規矩也〔編〕『日本隨筆集成』第五輯）
 鈴木澶洲『尺牘筌』、天明二年（一七八二年）刊（波多野太郎〔編〕『中国語学資料

- 叢刊』尺牘篇第一)
- 井上金峨『金峨山人考槃堂漫録』、成立年不明、国立公文書館蔵
- 井上金峨『病間長語』、成立年不明(岸上操編『近古文芸温知叢書』、博文館、一八九一年)
- 岡崎廬門(閱)・岡崎元軌(輯)『尺牘斷錦』、天明四年(一七八四年)刊、龍谷大学図書館蔵
- 尾崎鳩居『鳩居語』、天明四年成立(一七八四年)(関義一郎〔編〕『続続日本儒林叢書』、東洋図書刊行会、一九三六年)
- 大典頭常『尺牘式補遺』、天明四年(一七八四年)刊
- 井上金峨『金峨先生焦餘稿』、天明五年(一七八五年)序(関儀一郎〔編〕『続続日本儒林叢書』第三冊、東洋図書刊行会、一九三七年)
- 岡鳳鳴(閱)・山呉練(輯)『和漢尺牘解環』、天明七年(一七八七年)刊、東北大学附属図書館蔵
- 尾藤二洲『正学指掌』、天明七年(一七八七年)刊(頼惟勤〔校注〕『徂徠学派』、日本思想大系第三十七卷、岩波書店、一九七二年)
- 村瀬櫟岡(校)『明徐天目尺牘』、天明七年(一七八七年)刊(長澤規矩也〔編〕『和刻本漢籍文集』第十五輯、汲古書院、一九七八年)
- 稲葉默齋(講)・篠原惟秀等(筆録)『小学筆記』、天明九年(一七八九年)筆録、東京大学総合図書館蔵
- 荻生徂徠『射書類聚国字解』、寛政元年(一七八九年)刊、慶應義塾大学図書館蔵
- 戸崎淡園『尺牘彙材』、寛政元年(一七八九年)刊
- 大典頭常『北禅文草』、寛政四年(一七九二年)刊、東京大学総合図書館蔵
- 藤田幽谷『二連異称』、寛政五年(一七九三年)跋(菊池謙二郎〔編〕『幽谷全集』、吉田彌平、一九三五年)
- 渋井太室『読書會意』、寛政六年(一七九四年)刊(長澤規矩也〔編〕『影印日本随筆集成』第五輯、汲古書院、一九七八年)
- 本居宣長『古今集遠鏡』、寛政六年(一七九四年)成立(大久保正〔編〕『本居宣長全集』第三卷、筑摩書房、一九六九年)
- 市川鶴鳴『末賀能比連』、刊年不明
- 村瀬櫟岡『南郭先生尺牘標注』、寛政七年(一七九五年)刊、早稲田大学図書館蔵
- 本居宣長『源氏物語玉の小櫛』、寛政八年(一七九六年)成立(大野晋〔編〕『本居宣長全集』第四卷、筑摩書房、一九六八年)
- 広瀬臺山『文武雅俗涇渭辨』、寛政九年(一七九七年)刊(栗原直校注『文武雅俗涇渭弁』、三樹書房、一九九三年)
- 伊藤東涯『東涯漫筆』、寛政十二年(一八〇〇年)序、甘雨亭叢書、早稲田大学図書館蔵
- 荻生徂徠『経子史要覧』、文化元年(一八〇四年)刊(島田虔次〔編〕『荻生徂徠全集』第一卷、みすず書房、一九七三年)
- 富士谷御杖『北辺随筆』、文化二年(一八〇五年)刊(三宅清編『新編富士谷御杖全

185. 集』第二卷、思文閣出版、一九七九年)
186. 三繩桂林『詩学解蔽』、文化二年(一八〇五年)刊、国立国会図書館蔵
187. 賀茂真淵『国意考』、文化四年(一八〇七年)刊(久松潜一監修『賀茂真淵全集』第十九卷、続群書類従完成会、一九八〇年)
188. 橋本稻彦「辨読国意考」、成立年不明(賀茂真淵『国意考』、文化四年(一八〇七年)刊、早稲田大学図書館蔵)
189. 富士谷御杖『止波受驚多理』、文化十年(一八一三年)成立(三宅清編『新編富士谷御杖全集』第一卷、思文閣出版、一九九三年)
190. 富士谷御杖『歌道挙要』、文化十四年(一八一七年)成立(三宅清編『新編富士谷御杖全集』第四卷、思文閣出版、一九八六年)
191. 『翰墨蒙訓尺牘箋』、文政元年(一八一八年)、酒田市立図書館蔵
192. 富士谷御杖『神道大意』、文政二年(一八一九年)成立(三宅清編『新編富士谷御杖全集』第一卷、思文閣出版、一九九三年)
193. 岡野逢原『逢原記聞』、成立年不明(多治比郁夫・中野三敏校注『当代江戸百化物在津紀事 仮名世説』、新日本古典文学大系第九七卷、岩波書店、二〇〇〇年)
194. 富士谷御杖『神明憑談』、文政五年(一八二二年)成立(三宅清編『新編富士谷御杖全集』第四卷、思文閣出版、一九八六年)
195. 立原翠軒『此君堂文集』、成立年不明、国会図書館蔵
196. 富士谷御杖『万葉集燈』、文政六年(一八二三年)刊(三宅清編『新編富士谷御杖全集』第二卷、思文閣出版、一九七九年)
197. 市原青霞『消息文鑑尺牘楷梯』、文政七年(一八二四年)
198. 富士谷御杖『伊勢両大神宮辨』、成立年不明(三宅清編『新編富士谷御杖全集』第一卷、思文閣出版、一九九三年)
199. 富士谷御杖『古事記燈畧』卷之一、成立年不明(三宅清編『新編富士谷御杖全集』第一卷、思文閣出版、一九九三年)
200. 会澤正志齋『新論』、(底本)安政四年(一八五七年)刊(今井宇三郎・瀬谷義彦・尾藤正英〔校注〕『水戸学』日本思想大系第五十三卷、岩波書店、一九七三年)
201. 會澤正志齋『豈好辯』、文政十一年跋(一八二八年)跋(関儀一郎〔編〕『日本儒林叢書』第四冊、東洋図書館刊行会、一九二九年)
202. 會澤正志齋『学制略説』、天保元年(一八三〇年)頃成立(文部省総務局課〔編〕『日本教育史料』第五卷、一八九一年、四六一頁)
203. 古賀侗庵『侗庵文集』四集、天保元年(一八三〇年)成立、西尾市岩瀬文庫蔵
204. 野崎藤橋(関)・安達文龍(編)『手簡裁制』、天保五年(一八三四年)刊
205. 富永滄浪『古学辨疑』、天保五年(一八三四年)刊
206. 悟免庵主人『当世名家評判記』、天保六年(一八三五年)序、慶應義塾大学図書館蔵
207. 亀井昭陽(等)『葎文談広疏』、成立年不明(亀井南冥・昭陽全集刊行会〔編〕『亀井南冥・昭陽全集』第六卷、葎書房、一九七九年)
208. 広瀬淡窓『儒林評』、天保七年(一八三六年)成立(関義一郎〔編〕『続日本儒林叢

- 書』第一冊、東洋図書刊行会、一九二七年)
209. 會澤正志齋『対問三策』、天保八年(一八四八年)成立(福田耕二郎〔校注〕『神道体系』論説編十五、神道大系編纂会、一九八六年)
210. 會澤正志齋『中庸釈義』、天保十年(一八三九年)序、無窮会図書館蔵
211. 會澤正志齋『典謨述義』、天保十一年(一八四〇年)序、無窮会図書館所蔵
212. 會澤正志齋『退食間話』、天保十三年(一八四二年)序(今井宇三郎・瀬谷義彦・尾藤正英〔校注〕『水戸学』、日本思想大系第五十三卷、岩波書店、一九七三年)
213. 古賀侗庵『侗庵文集』六集、天保十三年(一八四二年)成立、西尾市岩瀬文庫蔵
214. 野崎藤橋(閱)・安達文龍(編)『手簡裁制』、天保五年(一八四四年)刊
215. 會澤正志齋『読論日札』、弘化四年(一八四七年)成立、無窮会図書館蔵
216. 藤田東湖『弘道館記述義』、弘化四年(一八四七年)頃成立(今井宇三郎・瀬谷義彦・尾藤正英〔校注〕『水戸学』、日本思想大系第五十三卷、岩波書店、一九七三年)
217. 會澤正志齋『江湖負暄』、嘉永元年(一八四八年)成立(福田耕二郎〔校注〕『神道体系』論説編十五、神道大系編纂会、一九八六年)
218. 福地苟庵『続園記』、嘉永年間成立、東北大学附属図書館蔵
219. 横井小楠『学校問答書』、嘉永五年(一八五二年)成(佐藤昌介・植手通有・山口宗之〔校注〕『渡辺崋山高野長英佐久間象山横井小楠橋本左内』日本思想大系第五十五卷、岩波書店、一九七一年)
220. 會澤正志齋『読周官』、安政元年頃成立、無窮会図書館蔵
221. 青山延于『文苑遺談』、安政三年(一八五六年)頃成立(関義一郎〔編〕『続日本儒林叢書』第一冊、東洋図書刊行会、一九二七年)
222. 吉田松陰『丙辰幽室文稿』、安政三年(一八五六年)成立(山口県教育会(編)『吉田松陰全集』第三卷、岩波書店、一九三五年)
223. 木村黙老『続聞まゝの記』、成立年不明、天理大学附属天理図書館蔵
224. 會澤正志齋『及門遺範』、文久元年(一八六一年)刊、東京大学総合図書館蔵
225. 紅星子(編)『雑花錦語集』、成立年不明、熊本県立図書館蔵
226. 會澤正志齋『下学邇言』、一八九二年刊、東京大学総合図書館蔵
227. 栗田寛『天朝正学』(国光社、一八九六年)
228. 菅政友『菅政友全集』、国書刊行会、一九〇七年
229. 重野成齋『成齋文集』第二集、富山房、一九一一年
230. 田口卯吉(著)・鼎軒田口卯吉全集刊行会(編)『鼎軒田口卯吉全集』、吉川弘文館、一九二九年
231. 大内地山『水戸学講義案』、水戸学研究会、一九四一年
232. 内藤恥叟『国体發揮』、博文館、一九八九年
233. 丸山眞男『忠誠と反逆』(同『丸山眞男集』第八卷、岩波書店、一九九六年)
234. 水戸市教育委員会(編)『東湖先生之反面』、復刻版、国書刊行会、一九九八年
235. 丸山眞男『丸山眞男講義録第五冊日本政治思想史965』(東京大学出版会、一九九九年)
236. 會澤正志齋・名越時正(編)『會澤正志齋文稿』(国書刊行会、二〇〇二年)
237. 著者不明『護園雜話』成立年不明(『続日本随筆大成』第四卷、吉川弘文館、一九七

238. 著者不明『護園雜話』、成立年不明（『続日本随筆大成』第四卷、吉川弘文館、一九七九年）
239. 高島升栄『江島辨才天女靈驗一代行状略記』、成立年不明、国立国会図書館蔵
240. 三升屋二三治『十八大通』、成立年不明（『続燕石十種』第二卷、一九八〇年、中央公論社）
241. 『京都書林仲間上組済帳標目』（彌吉光長『未刊史料による日本出版文化』第一卷、ゆまに書房、一九八八年）
242. 劉義慶（撰）・王世貞（刪定）『世説新語補』卷三、万曆十四年序（早稲田大学、服部文庫、南郭書入れ本）
243. 胡廣（等撰）・葉向高（參補）『古今大方詩經大全』、万曆三十三年刊、東京大学総合図書館蔵
244. 胡廣（等撰）『性理大全』、万曆年間、東京大学総合図書館蔵
245. 歐陽詢（撰）・汪紹楹（校）『藝文類聚』卷八十八、上海古籍出版社出版、新版一九八二年
246. 王世貞『弇州山人四部稿』、明代論著叢刊、偉文図書出版社有限公司、一九七六年
247. 黎靖徳（編）・王星賢（校点）『朱子語類』、理学叢書、中華書局、一九九四年
248. 文淵閣『四庫全書』電子版、上海人民出版社・迪志出版有限公司、一九九九年
249. 朱熹（著）・徐徳明（校点）『四書章句集注』、上海古籍出版社・安徽教育出版社、二〇〇一年
250. 「河南程氏外書」（程顥・程頤〔著〕・王考魚〔点校〕『二程集』、中華書局、二〇〇四年）
251. トクヴィル（著）・松本礼二（訳）『アメリカのデモクラシー』第一卷（上）（岩波書店、二〇〇五年）

【二次資料】

（単行本）

1. 石田一良『伊藤仁齋』（人物叢書、吉川弘文館、一九六〇年、新装第二版、一九九八年）
2. 磯田道史『近世大名家臣団の社会構造』（東京大学出版会、二〇〇三年）
3. 市川三陽『高橋道齋』（楽墨会、一九一八年）
4. 市古貞次・野間光辰（監修）『日本古典文学大辞典』第三冊（岩波書店、一九八四年）
5. 茨城県立歴史館（編）『東京都多摩市高橋清賀子家文書目録―豊田天功・小太郎関係文書』（茨城県立歴史館、一九九五年）
6. 揖斐高『江戸詩歌論』（汲古書院、一九九八年）
7. 今田洋三『江戸の本屋さん』（NHKブックス二九九、日本放送出版協会、一九七七年）
8. 植原亮ほか『エンハンスメント・社会・人間性』（UTCPBooklet8、UTCP、二〇〇九年）
9. 宇佐美喜三八『近世歌論の研究―漢学との交渉―』（研究叢書三八、和泉書院、一九

- 八七年)
10. 小笠原春夫『国儒論争の研究―直毘霊を起点として』(ぺりかん社、一九八八年)
11. 小倉慈司・山口輝臣『天皇と宗教』天皇の歴史第九卷(講談社、二〇一一年)
12. 荻部直『丸山眞男―リベラリストの肖像』(岩波書店、二〇〇六年)
13. 笠谷和比古『主君「押込」の構造―近世大名の家臣団―』(平凡社選書、平凡社、一九八八年)
14. 河野有理『明六雑誌の政治思想―阪谷素と「道理」の挑戦』(東京大学出版会、二〇一一年)
15. 河野有理『田口卯吉の夢』(慶應義塾大学出版会、二〇一三年)
16. 子安宣邦『国家と祭祀―国家神道の現在』(青土社、二〇〇四年)
17. 子安宣邦『徂徠学講義―『弁名』を読む』(岩波書店、二〇〇八年)
18. 相良亨『近世日本における儒教運動の系譜』(哲学全書3、理想社、一九七五年)
19. 彰考館文庫(編)『彰考館図書目録』(彰考館文庫、一九一八年)
20. 申維翰・姜在彦(訳)『海遊録―朝鮮通信使の日本紀行』(東洋文庫、平凡社、一九七四年)
21. 関口すみ子『御一新とジェンダー―荻生徂徠から教育勅語まで』(東京大学出版会、二〇〇五年)
22. 竹治貞夫『近世阿波漢学史の研究続編』(風間書房、一九九七年)
23. 田原嗣郎『徂徠学の世界』(東京大学出版会、一九九一年)
24. 玉井哲雄『江戸 失われた都市空間を読む』(イメージ・リーディング叢書、平凡社、一九八七年)
25. 玉井哲雄『江戸町人地に関する研究』(近世風俗研究会、一九七七年)
26. 張翔・園田英弘(共編)『「封建」・「郡県」再考―東アジア社会体制論の深層』(思文閣出版、二〇〇六年)
27. 田世民『近世日本における儒礼受容の研究』(ぺりかん社、二〇一二年)
28. 中尾友香梨『江戸文人と明清楽』(汲古書院、二〇一〇年)
29. 中野卓『商家同族団の研究 第二版(上)』(未来社、一九七八年)
30. 中野三敏『十八世紀の江戸文芸』(岩波書店、一九九九年)
31. 中村幸彦『中村幸彦著述集第二卷―近世的表现―』(中央公論社、一九八二年)
32. 西山松之助『家元の研究』(西山松之助著作集第一卷、吉川弘文館、一九八二年)
33. 野田寛・山本十郎『肥後文教と其城府と教育』(熊本市教育委員会、一九五六年)
34. 服藤弘司『大名留守居役の研究 幕藩体制の法と権力Ⅲ』(創文社、一九八四年)
35. 樋口秀雄・朝倉治彦(校訂)『享保以後 江戸出版書目』(未刊国文資料別巻一、未刊国文資料刊行会、一九六二年)
36. 日野龍夫『江戸の儒学 日野龍夫著作集 第一卷』(ぺりかん社、二〇〇八年)
37. 日野龍夫・高橋圭一[編]『太平楽府他―江戸狂詩の世界』(東洋文庫五三八、平凡社、一九九一年)
38. 日野龍夫『服部南郭伝攷』(ぺりかん社、一九九九年)
39. 平石直昭『荻生徂徠年譜考』(平凡社、一九八四年)
- 40.

41. 裴宗鎬(著)・川原秀城(監訳)『朝鮮儒学史』、知泉書館、二〇〇七年。
42. ジョン・G・A・ポーコック・田中秀夫(訳)『徳・商業・歴史』(みすず書房、一九九三年)
43. 前田勉『近世日本儒学と兵学』(ぺりかん社、一九九六年)
44. 前田勉『江戸の読書会』(平凡社、二〇一二年)
45. 丸山眞男『日本政治思想史研究』(東京大学出版会、一九五二年)
46. 丸山眞男『日本政治思想史研究』(東京大学出版会、一九五二年、新装版、一九八三年)
47. 水戸市史編さん委員会『水戸市史』中巻(三)(水戸市役所、一九七六年)
48. 宮崎修多『江戸漢詩史再考―格調詩に盛り込みうるもの』(教育研究プロジェクト特別講義第十八号、総合研究大学院大学文化科学研究科、二〇〇九年)
49. 武藤巖男(編)『肥後先哲遺蹟』(隆文館、一九一一年)
50. 守屋毅『元禄文化 遊芸・悪所・芝居』(講談社学術文庫、講談社、二〇一二年)
51. 横山健堂『現代人物管見』(易風社、一九一〇年)
52. 吉田伸之『近世都市社会の身分構造』(東京大学出版会、一九九八年)
53. 吉田一徳『大日本史紀伝志表撰考』(風間書房、一九六〇年)
54. 米田雄介『奇蹟の正倉院宝物―シルクロードの終着駅』(角川選書四七八、角川学芸出版、二〇一〇年)
55. 渡辺浩『近世日本社会と宋学』(東京大学出版会、一九八五年)
56. 渡辺浩『日本政治思想史―十七〜十九世紀』(東京大学出版会、二〇一〇年)

(単行本・雑誌等所収論文)

1. 相原耕作「本居宣長の言語論と秩序像」(一)〜(三)『東京都立大学法学会雑誌』第三十九巻第一・二号、第四十巻第一号、一九九八〜一九九九年)
2. 相原耕作「古文辞学と徂徠学―荻生徂徠『弁道』『弁名』の古文辞学的概念構成(六・完)」『法学会雑誌』第五十一巻第二号、首都大学東京都市教養学部法学系、二〇一一年)
3. 東より子「富士谷御杖の「斎宮」再興論」(『下関短期大学紀要』第一九・二〇号、二〇〇二年)
4. 東より子「富士谷御杖の神典解釈―「欲望」の神学」(『季刊日本思想史』第六十四号、ぺりかん社、二〇〇三年)
5. 尼ヶ崎彬「言葉に宿る神―富士谷御杖―」(同『花鳥の使―歌の道の詩学(一)』、勁草書房、一九九五年)
6. 荒木見悟「朱子学の哲学的性格―日本儒学解明のための視点設定―」(荒木見悟・井上忠「校注」『貝原益軒 室鳩巢』日本思想大系第三十四巻、岩波書店、一九七〇年)
7. 新田元規「唐宋より清初に至る禘祫解釈史」(『中国哲学研究』第二〇号、東京大学中国哲学研究会、二〇〇四年)
8. 飯田剛彦「投壺／投壺矢」(米田雄介・杉本一樹「編著」『正倉院美術館ザ・ベストコレクション』、講談社、二〇〇九年)
9. 池澤一郎「漢詩と狂詩―大田南畝における雅俗意識」(同『江戸文人論』、汲古書院、

- 二〇〇〇年)
10. 池澤一郎「大田南畝の漢詩と『蒙求』——近世漢詩における『蒙求』」(同『江戸文人論』汲古書院、二〇〇〇年)
11. 池澤一郎「護園漢詩における「陽春白雪」詠の展開」(同『江戸文人論』汲古書院、二〇〇〇年)
12. 石井紫郎「『封建』制と幕藩体制」(同『日本人の国家生活』日本国制史研究Ⅱ、東京大学出版会、一九八六年)
13. 市古夏生「近世における板株・類板の諸問題」(『江戸文学』第十六号、ぺりかん社、一九九六年)
14. 伊東貴之「中国近世思想史における同一性と差異性——「主体」「自由」「欲望」とその統御」(溝口雄三・伊東貴之・村田雄二郎『中国という視座』これからの世界史4、平凡社、一九九五年)
15. 井上厚史「荻生徂徠の「物」をめぐる言説」(『島根県立国際短期大学紀要』第五号、一九九八年)
16. 揖斐高「風雅論——江戸期朱子学における古典主義詩歌論の成立」(『江戸詩歌論』汲古書院、一九九八年)
17. 揖斐高「擬古論——徂徠・春台・南郭における模擬と変化」(『日本漢文学研究』第四号、二松学舎大学『21世紀COEプログラム』、二〇〇九年)
18. 今井宇三郎「水戸学における儒教の受容——藤田幽谷・会沢正志斎を主として——」(今井宇三郎・瀬谷義彦・尾藤正英〔校注〕『水戸学』日本思想大系第五十三巻、岩波書店、一九七三年)
19. 今井宇三郎「会沢正志斎における儒教経伝の研究」(山岸徳平〔編〕『日本漢文学史論考』、岩波書店、一九七四年)
20. 岩田浩太郎「都市経済の転換」(吉田伸之〔編〕『都市の時代』日本の近世第九巻、中央公論社、一九九二年)
21. 大川真「後期水戸学における思想的転回——会沢正志斎の思想を中心に——」(『日本思想史学』第三十九号、日本思想史学会、二〇〇七年)
22. 大谷雅夫「恕とおもいやりとの間——伊藤仁齋の学問、その一端」(『国語国文』第四十八巻第三号、京都大学文学部国語学国文学研究室、一九七九年)
23. 大谷雅夫「人心不同如面——成語をめぐる和漢比較論考——」(和漢比較文学会編『和漢比較文学叢書』第七巻、汲古書院、一九八八年)
24. 大谷雅夫「近世前期の学問——契沖・仁齋——」(久保田淳・栗坪良樹・野山嘉正・日野龍夫・藤井貞和〔編〕『岩波講座 日本文学史第八巻 十七・十八世紀の文学』、岩波書店、二〇〇〇年)
25. 大谷雅夫「歌人は居ながら名所を知る」(『古典学の再構築』第十三号、平成十年度～十四年度文部科学省科学研究費特定領域研究「古典学の再構築」ニューズレター、二〇〇三年)
26. 岡澤慶三郎「田中江南の墓碑発見と其事蹟に就て」(『掃苔』第九巻第四号、東京名墓顕彰会、一九四〇年)
27. 小川霊道「無隠道費傳の一考察」(『駒沢史学』第四巻、駒澤大学、一九五四年)

28. 奥野新太郎「劉辰翁の評点活動と元朝初期の文学」(『中国文学論集』第三七号、九州大学中国文学会、二〇〇八年)
29. 奥野新太郎「劉辰翁の評点と「情」」(『日本中國學會報』第六二号、日本中國學會、二〇一〇年)
30. 掛本勲夫「田中江南の林崎文庫改革意見書・「御文庫興隆愚案」」(『皇學館論叢』第二十六卷第一号、皇學館大學人文学会、一九九三年)
31. 梶田明宏「西南戦争以前の言説状況―士族民権論をめぐる「氣」の問題について」(『書陵部紀要』第四十三号、宮内庁書陵部、一九九一年)
32. 柏崎順子「江戸出版業界の利権をめぐる争い―類板規制の是非」(『インテリジェンス』第三号、二〇世紀メディア研究所、二〇〇三年)
33. 片岡龍「伊藤仁齋の異端批判の形成」(『東洋の思想と宗教』第十七号、早稲田大学東洋哲学会、二〇〇〇年)
34. 片岡龍「荻生徂徠の初期兵学書について」(『東洋の思想と宗教』第十五号、早稲田大学東洋哲学会、一九九八年)
35. 狩野直喜「山井鼎と七経孟子考文」(同『支那学文藪』、弘文堂書店、一九二八年)
36. 神田喜一郎「遊戲具「投壺」について」(東方学術協会『正倉院文化』、大八洲出版株式会社、一九四八年)
37. 衣笠安喜「折衷学派の歴史的 성격」(同『近世儒学思想史の研究』、法政大学出版局、一九七六年)
38. 金光来「星湖心学における「聖賢之七情」の解釈とその意義」(『中国哲学研究』第二十六号、東京大学中国哲学研究会、二〇一二年)
39. 黒住真「初期徂徠の位相」(同『近世日本社会と儒教』、ぺりかん社、二〇〇三年)
40. 合山林太郎「幕末京撰の漢詩壇―広瀬旭莊・河野鉄兜・柴秋村を中心に」(『日本文学』第六〇巻第一〇号、日本文学協会、二〇一一年)
41. 合山林太郎「性靈論以降の漢詩世界―近世漢詩をどう把握するか」(『日本文学』第六一卷第一〇号、日本文学協会、二〇一二年)
42. 合山林太郎「漢詩における明治調―森槐南と国分青厓」(『文学』第九巻第四号、岩波書店、二〇〇八年)
43. 小島康敬「荻生徂徠『吳子国字解』翻刻(二)」(『季刊日本思想史』第三十三号、ぺりかん社、一九八九年)
44. 小島康敬「荻生徂徠の「学」」(同『徂徠学と反徂徠学』増補版、ぺりかん社、一九九四年)
45. 小林勇「武士と通人」(『国語国文』第五十九巻第八号、一九九〇年)
46. 子安宣邦「近世における人間の自覚と中国思想―伊藤仁齋における儒教の位相」(三枝充恵・今井淳「編著」『東洋文化と日本』、ぺりかん社、一九七五年)
47. 子安宣邦「伊藤仁齋研究」(『大阪大学文学部紀要』第二十六巻、大阪大学、一九八六年)
48. 坂田進一「魏氏明楽―江戸文人音楽の中の中国―」(東アジア地域間交流会「編」『から船往来―日本の育てたひと・ふね・こころ』、中国書店、二〇〇九年)
49. 相良亨「日本における道徳理論」(滝沢克己・小倉志祥「編」『岩波講座哲学』第十

50. 島田英明「経世の夢、文士の遊戯―頼山陽における政治思想と史学」(東京大学大学院法学政治学研究科修士論文、二〇一三年)
51. 島田虔次「解題・凡例」(同〔編〕『荻生徂徠全集』第一卷、みすず書房、一九七三年)
52. 清水徹「伊藤仁齋における『詩経』観」(『東洋文化』復刊第百号、財団法人無窮会、二〇〇八年)
53. 白石良夫「水足屏山・博泉と肥後学芸史」(同『江戸時代学芸史論考』、三弥井書店、二〇〇〇年)
54. 鈴木淳「続小宮山木工進昌世年譜稿」(『国文学研究資料館』第二一号、一九九五年)
55. 高木博志「一八八〇年代の天皇就任儀礼と「旧慣」保存」(同『近代天皇制の文化史的研究―天皇就任儀礼・年中行事・文化財』、校倉書房、一九九七年)
56. 田尻祐一郎「会沢正志斎に於ける礼の構想」(『日本思想史学』第十五号、日本思想史学会、一九八三年)
57. 田尻祐一郎「四端」と「孝弟」―仁齋試論(『日本漢文学の研究』創刊号、二松学舍大学21世紀COEプログラム、二〇〇三年)
58. 田尻祐一郎「民の父母」小考―仁齋・徂徠論のために―(張翔・園田英弘〔共編〕『封建』・「郡県」再考―東アジア社会体制論の深層』、思文閣出版、二〇〇六年)
59. 田尻祐一郎「訓読」問題と古文辞学―荻生徂徠をめぐる―(中村春作・市來津由彦・田尻祐一郎・前田勉〔共編〕『訓読』論―東アジア漢文世界と日本語』、勉誠社、二〇〇八年)
60. 田中道雄「思いやる心」(想像)の発達―二元的な主客の合一―(同『蕉風復興運動と蕪村』、岩波書店、二〇〇〇年)
61. 玉井哲雄「近世都市空間の特質」(吉田伸之〔編〕『都市の時代』日本の近世第九卷、中央公論社、一九九二年)
62. 張永・鄧麗星「中国古代投壺發展盛衰校証」(『王林師範学院学報(自然科学)』第二十八卷第五期、二〇〇七年)
63. 陳鴻麒「晚明尺牘文學與尺牘小品」(國立暨南國際大學中國語文學系碩士論文、二〇〇六年)
64. 辻達也「解説」(荻生徂徠〔著〕辻達也〔校注〕『政談』、岩波書店、一九八七年)
65. 辻本雅史「「學術」の成立―益軒の道德論と学問論―」(横山俊夫〔編〕『貝原益軒―天地和樂の文明学』、平凡社、一九九五年)
66. 陶徳民「「時流に乗らない」という泊園精神―幕末・明治における徂徠学者の動向」(『東アジア文化交渉研究別冊』第二号、関西大学、二〇〇八年)
67. 中野三敏・亀井秀雄・興善宏・佐佐木幸綱・ロバート・キャンベル「《座談会》雅俗文芸の解体」(『文学』増刊明治文学の雅と俗』、岩波書店、二〇〇一年)
68. 中村幸彦「文人服部南郭論」(同『中村幸彦著述集』第一卷、中央公論社、一九八二年)
69. 中村幸彦「風雅論的文学観」(同『中村幸彦著述集』第一卷、中央公論社、一九八二年)

70. 中村春作「徂徠における「物」について」(『待兼山論叢』第十五号、一九八二年)
71. Kate Wildman Nakai, "Tokugawa Approaches to the Ritual of Zhou: the Late Mito School and 'Feudalism'; Benjamin A. Elman and Martin Ken, eds, *Statecraft and Classical Learning: the Ritual of Zhou in East Asian History*, Leiden: Brill, 200
72. 西田耕三「水足博泉と文章 文章入門から古文辞へ」(高田衛〔編〕『見えない世界の文学誌—江戸文学考究—』、ぺりかん社、一九九四年)
73. 尾藤正英「伊藤仁斎における学問と実践」(『思想』第五二四号、岩波書店、一九六八年)
74. 尾藤正英「太宰春臺の人と思想」(頼惟勤〔校注〕『徂徠学派』日本思想大系第三十七卷、岩波書店、一九七二年)
75. 尾藤正英「水戸学の特質」(今井宇三郎・瀬谷義彦・尾藤正英〔校注〕『水戸学』日本思想大系第五十三卷、岩波書店、一九七三年)
76. 尾藤正英「江戸時代の社会と政治思想の特質」(同『江戸時代とはなにか』、岩波書店、二〇〇六年)
77. 日野龍夫「徂徠学派の役割」(同『江戸の儒学 日野龍夫著作集第一巻』、ぺりかん社、二〇〇八年)
78. 日野龍夫「江戸時代の漢詩和訳書」(同『江戸の儒学 日野龍夫著作集第一巻』、ぺりかん社、二〇〇八年)
79. 平石直昭「戦中・戦後徂徠論批判」(『社会科学研究』第三十九巻一号、東京大学社会科学研究所、一九八七年)
80. 平石直昭「徂徠学の再構成」(『思想』第七六六号、岩波書店、一九九八年)
81. 福原啓郎「王羲之の『十七帖』について」(『書論』第二十八号、書論研究会、一九九二年)
82. マーク・ボラー「山本北山年譜稿」(『成蹊国文』第三十号、成蹊大学文学部日本文学科、一九九七年)
83. 松田宏一郎「日本近世後期における秩序の正当化論理—「慣習」・「古例」と法源の意識」(『茶山学』第十三号、茶山文化財団、二〇〇八年)
84. 松田宏一郎「封建」と「自治」、そして「公共心」というイデオロギー」(同『江戸の知識から明治の政治へ』、ぺりかん社、二〇〇八年)
85. 松村宏「徂徠「護園十筆」初考と精写本翻刻(一)」(『慶応義塾大学日吉紀要社会科学思想史篇』第二号、一九九一年)
86. 松本節子「高葛陂著『漱石斎小艸録』(『あけぼの』第三十巻六号、あけぼの社、一九九七年)
87. 丸山眞男「肉体文学から肉体政治まで」(同『丸山眞男集』第四巻、一九九五年)
88. 丸山眞男「日本の思想」(同『丸山眞男集』第七巻、岩波書店、一九九六年)
89. 三浦國男「総説間断のない思想」(同『朱子と氣と身体』、平凡社、一九九七年)
90. 三谷博「「新論」覚え書き—「忠孝」の多重平行4辺形を中心に」(『歴史学研究報告』第二十二号、東京大学教養学部歴史学研究室、一九九四年)
91. 三ツ松誠「「みよさし」論の再検討」(藤田覚〔編〕『史学会シンポジウム叢書 十八世紀日本の政治と外交』、山川出版社、二〇一〇年)

92. 翠川文子「大枝流芳（岩田信安）小考」（『川村学園女子大学研究紀要』第十五卷二号、川村学園女子大学、二〇〇四年）
93. 三村竹清「葛阪山人」（『三村竹清集』第六卷、日本書誌学大系二三〔六〕、一九八四年）
94. 村上哲見「江戸の本屋・京の本屋」（『東方』第二二五号、東方書店、一九九八年）
95. 村上哲見「『唐詩選』と嵩山房—江戸時代漢籍出版の一側面—」（日本中国学会創立五十周年記念論文編集小委員会〔編〕『日本中国学会創立五十周年記念論文集』、汲古書院、一九九八年）
96. 守屋毅「家元制度—その形成をめぐって—」（『国立民族学博物館研究報告』四、国立民族学博物館、一九八〇年）
97. 有木大輔「江戸・嵩山房小林新兵衛による『唐詩訓解』排斥」（『中国文学論集』第三十六号、九州大学中国文学会、二〇〇七年）
98. 湯沢質幸「文雄における韻鏡と唐音」（『筑波学院大学紀要』第五集、筑波学院大学、二〇一〇年）
99. 吉田俊純「近代の水戸学理解—菊池謙二郎の事例を通して」（同『後期水戸学研究序説』、本邦書籍株式会社、一九八六年）
100. 吉田俊純「尊王攘夷思想の成立—『弘道館記述義』の成立とその思想的環境—」（同『後期水戸学研究序説』、本邦書籍株式会社、一九八六年）
101. 吉田俊純「水戸学と伊藤仁斎」（同『寛政期水戸学の研究—翠軒から幽谷へ—』、吉川弘文館、二〇一一年）
102. 吉田伸之「振売」（同『巨大城下町江戸の分節構造』、山川出版社、一九九九年）
103. 藍弘岳「荻生徂徠の詩文論と儒学—『武国』における「文」の探求と創出—」（東京大学大学院総合文化研究科学位論文、二〇〇八年）
104. 渡辺一郎「兵法家伝書形成についての一試論」（西山松之助・渡辺一郎・郡司正勝〔校注〕『近世藝道論』日本思想史大系第六十一巻、岩波書店、一九七二年）
105. 渡辺浩「伊藤仁斎・東涯—宋学批判と「古義堂」」（同『近世日本社会と宋学』、東京大学出版会、一九八五年）
106. 渡辺浩「「泰平」と「皇国」」（同『東アジアの王権と思想』、東京大学出版会、一九九七年）
107. 渡辺浩「儒学史の異同の一解釈—「朱子学」以降の中国と日本—」（同『東アジアの王権と思想』、東京大学出版会、一九九七年）
108. 渡辺浩「儒者・読書人・両班—儒学的「教養人」の存在形態—」（同『東アジアの王権と思想』、東京大学出版会、一九九七年）
109. 渡辺浩「徳川日本における「性」と権力」（『政治思想研究』第一号、政治思想学会、二〇〇一年）
110. 渡辺浩「「教」と陰謀—「国体」の一起源」（渡辺浩・朴忠錫〔編〕『韓国・日本・「西洋」—その交錯と思想変容』日韓共同研究叢書第十一巻、慶應義塾大学出版会、二〇〇五年）
111. 渡辺浩「「家職国家」と「立身出世」」（同『日本政治思想史—十七〜十九世紀』、東京大学出版会、二〇一〇年）

112.

渡邊義浩「所有と文化」(同『三國政權の構造と「名士」』、汲古書院、二〇〇四年)

論文題名 近世日本の「礼楽」と「修辭」―荻生徂徠以後の「接人」の制度構想―

氏名 高山 大毅

本論文は、近世日本の「礼楽」と「修辭」に関して、荻生徂徠以後の思想潮流に焦点を絞って考察した。「礼楽」と「修辭」とは荻生徂徠の学問において密接な関係にあるとされ、本稿ではこの二つを「接人」の制度構想という観点から分析した。「接人」は伊藤仁齋や荻生徂徠の著作に見える語で（「接人上」、「接人之間」、「人に接はる」と訓じられる。本稿では、この語にちなみ、従来の研究において「他者との関係」といった言葉で称されてきたものを「接人」の領域と呼ぶことにした）。

仁齋と徂徠は、万人の心に同一の完全な道德性が具わるとする宋学の教説を批判し、人間関係の問題に目を向けた。仁齋学の「他者との関係」の重視は、従来の研究においても繰り返し指摘されてきた。そこで、序章では、『論語』の財物の譲与を願う話の解釈を手掛かりに、先行研究を紹介しながら、仁齋と徂徠の「接人」の領域に対する見方の相違を明らかにした。仁齋が「接人」の領域での個人の態度や心構えを論じるのと異なり、徂徠は「接人」の領域に制度や型を設けることを説く。本稿は、徂徠に始まる、「接人」の領域への操作的介入を唱える思想の流れを分析対象とする（序章）。

第一部では、徂徠以後の「礼楽」をめぐる思想を検討した。

荻生徂徠は「職分」論や都市の「風俗」形成を主な思想的資源として、宋学とは懸け離れた独自の「礼楽」論を構築した。それは、「礼楽」の抽象的な「本体」の存在を否定し、「礼楽」を「安天下」のために編成された、それぞれ異なる機能を有する一揃いの「道具」や「術」であると考えた。

徂徠は、古代中国の「井田」制の根幹は「土着」にあると解し、それは人間関係の固定化により、他者への強い配慮を喚起する「術」であると考えた。彼は、同様の見地から、武士の譜代奉公人の再興を唱える。「めんどろ」な奉公人との日々のつきあいの中で、武士は被治者を見捨てず、領導する統治者の「徳」を養う。徂徠学における統治者は、固定的人間関係の中で、並外れて他者に配慮的に行動するように仕立て上げられた存在である。「聖人」は「徳」の培養のために「接人」の領域において人々に負荷をかける一方で、人間関係を円滑にするためにも種々の「礼楽」を設けていたと徂徠は見る。徂徠にとって「接人」の領域は一貫して操作の対象なのである（第一章）。

徂徠に激賞された「神童」水足博泉は、徂徠の「礼楽」論に示唆を受け、「器」（道具）を基軸とする先鋭的な統治構想を描いた。博泉によれば、古代の理想時代において、「接人」の領域は、「聖人」が制作した道具（器）によって、その秩序が明示され、維持されていた。礼楽で用いられる道具は、人々の心の動きを観察可能にし、相互監視による規律化をもたらす。道具の美しさに惹きつけられた人々は、抵抗することなく、かかる規律化に自ら身を委ねる。また、このような相互監視の機構を支えるために「聖人」は「学校」を建設した。「小学」では全ての身分の男子が文明の悪影響を除去され、純真無垢になる。

「大学」では将来の統治者たちが、「器」を通じて心の微細な働きまで調律される。博泉は、このような統治構想の実現を京都の禁裏に期待した(第二章)。

徂徠学派の儒者、田中江南は、古代中国の遊戲であり、「礼」である投壺を復興した。悪しき娯楽の駆逐を名目に掲げ、投壺普及を企図した江南は、投壺礼の改定に取り組んだ。その際、彼は「東照神君」(徳川家康)を「聖人」に比定し、徳川公儀には「礼楽」が存在すると説いた。また、伊勢に寄寓した彼は、内宮権禰宜の荒木田尚賢に「神道」の再興と「学校」の建設を提言している。「神道」を統治術と見做し、その「神道」を盛んにするために、社交と遊芸の拠点であった古代の「学校」の再興が必要であると彼は主張した(第三章)。

後期水戸学を代表する思想家である會澤正志齋の学問は、徂徠に始まる一連の「礼楽」論の集大成であるといえる。正志齋は、仁齋と徂徠の影響を受け、宋学を批判し、「接人」の領域を重視する。稀観の徂徠の著作の議論を踏まえながら、正志齋は「天朝」(禁裏)の「礼楽」の「深意」を探り、「忠孝」を鼓吹する巧妙な「礼」として禁裏の儀式を再発見した。正志齋は、徂徠と異なり、現今の統治体制は卓越した「礼楽制度」をそなえていると考える。また、「西夷」の教えにも「礼楽」の類似物があると思っていた。徂徠以後、統治術としての「礼楽」を様々な統治体制の中に認める議論が存在し、正志齋もそのような議論の流れに連なっている(第四章)。

第二部では、「修辭」の問題を取り上げた。

徂徠は、古代の統治者は、「詩」を通じ立場ごとの典型的な感情のあり方を理解し(「人情」理解)、また「詩」の一節を「断章取義」して引用するなど、共通の教養を踏まえた婉曲な表現を用いて交流していたと考える。徂徠学派の文学は、このような古代の統治者の言語活動の再現であった(第五章)

徂徠は、古代の統治者の言語活動にのっとり、文学の制度設計を行おうとした。詩文の刷新を通じて、「接人」の領域への介入を試みたのである。明詩注釈の『絶句解』は新たな文学の制度の一翼を担う書物として編纂された。田中江南の『唐後詩絶句解国字解』は本書の優れた注釈である。『唐後詩絶句解国字解』によって、徂徠学派が「趣向」の文学として明代の古文辞派の詩を鑑賞していたことが分かる(第六章)。

徂徠の文学領域における制度構築は結局、彼の計画通りにはいかなかった。彼の著作はなかなか出版に至らなかったのである。徂徠が編纂した文章選集である『四家雋』は板株(出版権)をめぐる書肆の紛争にまきこまれ公刊が遅れた。『四家雋』の代わり、李攀龍の書簡を集めた『滄溟先生尺牘』が初学者の文章入門書として盛んに読まれた。該書の流行は、文人間の交流を活発化させる一方で、古文辞派の詩文や徂徠学に対する浅薄な理解を助長することになった(第七章)

徂徠は、古代の「聖人」たちは天下の安寧の実現のために、統治者の言語表現の型を制定したと考える。「詩」の引用は、その中で描かれた、統治において配慮すべき「人情」を相手に理解させる効果がある。また、共通の知識に根差した婉曲な表現は、「直言」と異なり、相手の自発的な理解を促し、統治者間の軋轢の緩和に繋がると徂徠は考えた。

道理による説得よりも、「詩」を詠ずる方が相手の理解を得られるという徂徠の論

は、賀茂真淵や本居宣長に影響を与えた。本居宣長は、「ありのまま」の心情を詠んだ和歌こそが相手の共感を得られる言語活動であると考えた。歌を通じて人々が他者を思いやり、共感するようになれば、美しい秩序が現前すると宣長は説いた。

一方で、富士谷御杖は、「理」を説くことも、「情」を「ありのまま」に吐露することともに否定した。「直言」は語り手の自己陶醉や優越感を伴い、聞き手は必ず反発すると考えるのである。古代の天皇はかかる心の働きに気づき、「比喻」や「倒語」といった表現技法を定めたと御杖はいう。

近世日本の広義の「修辞」をめぐる思想には、宣長に代表される感情の流露から文彩が発生したと見る「自然」の文彩論と、徂徠や御杖のように古代の聖王の手によって文彩が制定されたと考える「作為」の文彩論の二つが存在した（第八章）

統治機構から言語活動に至るまで様々な経路から「接人」領域へ介入を試みる思想の流れは、江戸後期になると傍系化し、近代日本へ与えた影響は限定的である。しかし、彼らの透徹した思想は、なおもって顧みる価値があると思われる（終章）。